

〔金沢星稜大学経済学会公開講演会〕2006年7月5日 於金沢星稜大学

# ホリエモン・村上代表・ヒューザー社長事件から学ぶ法律問題

——コンプライアンス・司法制度改革・最高裁判決——

高岡法科大学  
吉原節夫

## 1. 歪曲ニッポンの状況露見

- 各社長の初期の主張
- TVキャスター・解説者のコメント
- 法的基礎知識の欠如
  - 粉飾決算・インサイダー取引の法的責任・売主の担保責任
- 法令の根拠無し感想がマスコミで大量発信

## 2. 猛スピードの新法令・法令改正

- スピード違反(?)の縦割り(⇒個人プレイ)霞ヶ関立法
- 新法令・改正法令の洪水現象
- 法令にも新店・閉店・改築・改装のラッシュ
- 立法への行政機関のリードと混乱

## 3. 法律の強制力

- 企業・社長・役員・議員等の驚きと狼狽
- 刑事責任の追及(家宅捜索・逮捕・刑事裁判など)
- 民事責任の追及(高額損害賠償金判決など)
- 取締法上の行政処分(営業停止・免許取消など)

## 4. 「コンプライアンス(法令の順守)」の大合唱時代

- 経営評論家・経済団体・経営者の方向転換(改説)
- 注意すべき重要点
  - 「現行」法令についての「正確」な知識
  - 「最高裁判決」は現行法である。
- 評論・学説は判決理由に引用されない。

## 5. 司法制度改革と「法化社会」

- 知るべき大きな流れ(日本社会の大潮流)
- 訴訟社会化・裁判の迅速化・調停や和解
- 「法における常識」
- リカレント学習・生涯学習を!!

